

令和6年3月29日 小方まちづくり特別委員会 議事録
13時30分 開会

○出席委員 (8人)

委員長 小田上 尚典

副委員長 細川 雅子

委員 中野 友博、豊川 和也、小出 哲義、末広 天佑、藤川 和弘、
中川 智之

議長 北地 範久

○欠席委員 なし

○小田上委員長 皆さん、こんにちは。定足数に達しておりますので、ただいまより小方まちづくり特別委員会を開催いたします。

まず、日程に沿っていきます。

日程1、今後の活動についてを議題といたします。

先日の定例会最終日に発足をして、委員長、副委員長、互選というところだけで終わりましたので、今後の活動の方向というものをまず定めておいて、次回に向けて準備する期間になればいいかなと思っております。まだ発足して、各派代表者会議の中で話が出てからも日が浅いということで、皆さんどのように進めていったらいいのかなという想像がついてないところも多いんじゃないかなと思います。なので、今日は疑問点とか、具体的な話には入らずに、こういう進め方がいいんじゃないかとか、こういう取組の仕方がいいんじゃないかというような意見を募りながら、それをまとめて、次回以降どういう活動をしていこうかというところを決めて終わりたいと思います。なので、そこまで長時間にはならないのかなというふうに考えておりますが、皆さんの御意見次第かなというところです。なのでよろしくをお願いします。

それで先ほども触れましたが、最終日に設立されましたが、もう一度、付議事項の確認というところ話に入る前にしておいたほうがいいかなと思います。今、事務局からサイドブックに発信をいただきました付議事項ですね。付議事項が二つほどあります。この2のところ決議案の2のところ、旧小方小中学校の跡地活用を中心とする小方まちづくりに関する事項、そして、提案理由に関して議長が必要と認める事項、この2点です。

その提案理由というところは、改めて全部は読みませんが、基本的には旧小方小中学校の跡地活用、そして、小方地区のまちづくり基本構想っていうところを中心にしなごらというところが提案理由に書かれております。なので、ここから大きくずれて議論が進むということはあまり好ましくないのかなというのが、こっからも見てとれますので、そのような運営になればいいかなというふうに思っております。

今日はせっかく議長も出席いただいておりますので、この委員会にどのような活動を期待されてるかっていうところを最初に触れていただけたらと思うんですけど、議長よろしいですか。

では、議長、お願いします。

○北地議長 委員長が言われましたように3月定例会で急遽、皆さん慌ただしくこの委員会を立ち上げたというような流れもあるんですけども、実際1月になって執行部のほうから、いろいろな構想の提案とかありましたので、それを受けて、やるのなら早いほうがいいかなと私も思っていて、急遽こういうお願いをして、立ち上げていただきました。よろしくお願いたします

今、委員長が言われますように、どういった内容なのかということなんですけども、書かれてあるとおりなんですけども、小方のまちづくりについて執行部からいろいろな具体的な案が出てくるとは思いますので、それに対しての議会としての提案があれば、それと市民の皆さんの意見を反映しながら議会として、よりよいまちづくりを進めて、つくっていきたくと、その辺を調査研究しながら議論を進めていただければなというふうには思っております。

ただ、この構想が出るまでもいろいろな歴史がありまして、昔からの議会としても構想について一応、提案形のものがありまして、そういう下支えをした内容がありまして、今回の構想の提案ということになっておりますので、その構想は議会としての意見も踏まえた上での構想なので、そういう歴史がありますので、これを覆してゼロからのスタートということは、まず考えられないかなというふうに思いますので、今の構想がよりよくなるような、先ほども言いましたように調査研究していただいて議論をしていただければと思います。

それと併せて、どう言いますか、区域というのは構想の絵がありましたよね。そのあたりを中心にしてやっていただければと思います。その後の協議の中で、またちょっと広がるかというような可能性はあるかも分かりませんが、そんなに広げてもというのが、広げれば切りがないんですけども、大竹市全体の話にもなるかと思っておりますけども、切りがないので、とりあえずは今の構想の中の計画について議論をしていただければと、よりよいまちづくりになるような議論がいただければと思いますので、よろしくお願いたします。

私からは、このような感じで考えておりますので、よろしくお願いたします。

○小田上委員長 ありがとうございます。

今、議長のお話で基本的には小方地区のまちづくり基本構想この中の構想がよりよくなるような議論をしてほしいと、加えて話をしていくものはこの構想内のエリアに絞っていかうというようなところでございました。そのあたりを念頭に置きながら、進めていけたらいいかなというふうに私のほうでも思っております。なので、議長、今、言っていただきましたが、大きくこの基本構想を変えてやろうとやっていうことではなくて、時代に合わせた修正とかっていうところが目的になるのかなと思っておりますが、皆さんそのような考え方で進めていくということではよろしいですか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○小田上委員長 ありがとうございます。

ただ、そうはいつでも、今回この委員会のメンバーが生活環境委員会と総務文教委員会

から4人ずつという形で出ております。では、その改選がいつあるかという約1年ちょっと後には、もう生活環境委員会と総務文教委員会、一応、改選を控えているということです。なので、一応、確認をしておきたいんですが、事務局が分かればなんですけど、この特別委員会の任期も来年の9月には改選されるという考え方で大丈夫ですかね。

局長。

○山田議会事務局長 常任委員会の改選があれば、もう一度、再考するというのが普通の流れかなと思います。

○小田上委員長 ありがとうございます。

なので、1年ちょっとしかないというところです。なので、やりたいこと、考えたいことたくさんあると思いますが、順序立てて、優先順位をつけてやっていかないと、既に予算がついてるもの令和6年度に関してはございます。そういうところでせつかくありますんで、実のある話ができればなと思いますんでよろしくお願いします。

実際どうやって進めていこうかって話なんですけど、何か具体的にこういうことをやっていったらいいんじゃないかという意見は用意してきてくださいというふうにお願いをしておきました。どなたからでも結構です。御意見おありの方、言っていただければと思います。

藤川委員。

○藤川委員 今、先ほども議長、委員長もおっしゃったとおり、基本構想を崩さない方針、大賛成です。ちょっと私の勉強不足もちろんあるんですけども、小方地区のまちづくり基本構想、隅から隅まで頭で把握しているわけではない、お恥ずかしながら。できれば、この委員会の中で一つずつ、このおさらいといいますか、もう一回確認といいますか、スタートをそこをやっていただけたら、私のほうも私自身やりやすくなるかなという思いで、今ちょっと発言させていただいているのと、この基本構想に沿って、おさらいをしながら、このまちづくりに対しての疑問点が出てくると思うんですよね。僕もざつとですけど目を通したときに、何でここはこうなんだろうっていうのが幾つかありましたので、そういうのをテーマに今後、進めていったらどうなのかなっていうのが、私の思いでございます。

以上です。

○小田上委員長 ありがとうございます。

まず、小方地区のまちづくり基本構想のことを皆さんで振り返る時間を作るっていう提案でよかったですかね。

○藤川委員 はい。

○小田上委員長 その中から疑問点出して、取り組んだらいいんじゃないかという御提案でした。ありがとうございます。

ほかにもございますか。

末広委員。

○末広委員 今の藤川委員のお話の補足みたいな形になるんですけども、疑問点もそうなんですけど、今、出ている執行部側の案とも照らし合わせながら、何でしょう、差異があったり、疑問点があったり、そこも必要なんじゃないかなと思います。

以上です。

○小田上委員長 ありがとうございます。

案ていうのが恐らくあれですね、議員全員協議会で言われたゾーニングとかそういう道の駅とかそういう話ですかね。なので、藤川委員が言われたものが小方地区のまちづくり基本構想、それに加えて議員全員協議会の資料もということでした。両方とも復習というか、改めて見て、意見、疑問を出していこうということが出ております。

ほか。

豊川委員。

○豊川委員 私のほうは特別委員会が立ち上がったわけですから、もっともっと市民の御意見等をこちらの特別委員会のほうで反映させていけたらいいんじゃないかなと思います。

○小田上委員長 ありがとうございます。

ごめんなさい、市民の意見っていうのは、もちろんよく分かります。例えば、具体的にどういことがとかっていう想像があれば提示いただけたら。

豊川委員、どうぞ。

○豊川委員 先日、市民説明会等もありまして、市民の方から幾つか疑問点等も資料でありますので、そちらの市民の方の疑問点等を特別委員会等でも話し合っていけたらいいんじゃないかなと思います。市民のほかに、要望等も話し合っていけたらいいなと思っております。

○小田上委員長 ありがとうございます。

なので、委員が個別で意見を聞いてきて、それを発表というか、紹介する場が必要じゃないかというお話ですかね。ですね。この委員会で何か聞く機会をつくろうとかがという提案ではないかなと思ったんですけど、個人で調べてきたものの発表というか、紹介いただける場というのが欲しいということですね。

他にございますか。

中野委員。

○中野委員 そうですね、来年9月っていうところでいうとスケジュールかなりタイトだな。ほかのまちでも特別委員会を設置する理由って、やっぱり政策提案か、予算で追加してもらるか、また市民の皆さんとのシンポジウムであったり、ワークショップっていうところが、ほかのまちでよくやられてるのかなっていうふうに思うんですが、1年っていう期間でいうと、本来であれば現状、何が課題となっているのか調査をして、地域の皆さんの声を聞いて、最後、提案するのかがどうかっていう流れだと思うんですけど、多分1年でここまでっていうのは難しいんじゃないかな。

私この前の意見交換会で執行部の皆さんと、たまたま総務部長と隣の席で話したんですけど、結構、資料に見えない背景とかっていうのがたくさんあるなって思ったんですね。例えば、今、資料は具体的には示さないけど、その資料を作るために、こういうところに視察に行ったとか、こういう考えを基にこういうイメージが膨らんでるんですけどっていうような話をクローズで聞けたっていうところがあったので、多分、何を進めるにしても執行部がどこまで考えてるのかがあっていうのを把握した上で、こっちも進まない、多分、資料

の言葉尻で捉えて、それを課題、これが問題、これが分からないっていうところで進めても、執行部に確認したらすぐ分かるっていう徒労に終わる可能性があるので、まず現状やっぱりオープンな場だと、これできるかどうか分かんないんですけど、オープンな場での議論ってなると記録に残っちゃうので、ちょっとクローズな場で執行部が今まで資料に載ってない部分で、例えば、どこに視察に行って、どういう形のイメージがあるのかとかっていう単純に議会側と執行部側のコミュニケーションの頻度っていうのが、改選後で新しい議員っていうところもあると思うんですけど、何かそこを踏まえた上で、こういう方向性なんだ、こういう認識があって、この課題になってるんだっていうのが分かった上で、この特別委員会として、これが課題になりますよね、さっき言われたように市民の方に意見を聞くのかみたいな形で、まず何か執行部側からの情報っていうのがオープンだと、この前みたいな、もう資料上での話しかできないと思うんで、ちょっとクローズな場ができるかどうかも含めて、どういう意図でその資料が作られてるのかっていう話は聞きたいかなっていうのが、まず1点と。

時間でいうと藤川委員、末広委員がおっしゃったように復習の時間というのは大切だと思うんですけど、それに1回を割くっていうのも、なかなかスケジュール的に難しいのかな。なので、今日、宿題として前回の平成28年、平成29年の小方地域まちづくり対策特別委員会の議事録を読む、小方地区のまちづくり基本構想を読む、読んだ上で何が疑問だったかっていう議論をするっていう、内容を復習する会っていうより、そこでっていう準備をした上での議論の場が大切なのかなというふうに思っています。

なので単純に、この小方地区のまちづくり基本構想とか、前回の小方地域まちづくり対策特別委員会での知識を全員が把握した上で、議論の時間を長く取りたいなっていうところがタイムスケジュール感でいうと、ちょっと必要なかなと思います。

ごめんなさい、最後、もう1個は、やっぱり任期が来年9月ってなると短いので、かつこの特別委員会のメンバー内での情報共有っていうのも必要なかなと思いますので、この特別委員会でのLINEグループの設置っていうのができたら、例えば、私、昨日、調べたら、つくば市とかっていうのも、このまちづくりの特別委員会つくって、段階を経てやってるとかっていう資料とかもあるんですけど、そういう執行部と議論をするための知識の底上げが必要になってくるので、そういったことが具体的にできたらいいのかなというふうに思いました。

以上です。

○小田上委員長 ありがとうございます。

1点目が、この特別委員会の委員会の開催ってことではなくて、勉強会とか、意見交換会みたいなものが開催できれば、そのほうが理解が深まること、背景知れることが多いんじゃないかという点と、藤川委員と末広委員が言われたところを実際に振り返りながら疑問点を出すんじゃないかって、ある程度、読んできてから出しましょうというところ、あとはグループLINEの作成という御提案がありました。ありがとうございます。

新たにでも、提案でもいいですし、出てきてるものについてでも何かありますか。

小出委員、どうぞ。

○小出委員 すいません、今まで他の委員の方の話で、過去の議論の内容を復習しましょうよっていうふうな話で、そうですね、小方地区のまちづくり基本構想についてもそうですし、過去の10年弱前の小方地区のまちづくりの特別委員会、そこでの議論の内容とかもちよっと復習していかないといけないと思いますし、その上で今回、常任委員会でも出てきた各会派からの意見というものは、それに過去の話合われた内容を踏襲してるものかどうかというこのチェックした上で、執行部との再度、調整になるかと思うんですが、過去のまちづくりの委員会では、A、B、C、Dというゾーン分けってのはされてなかったかというふうに思います。漠然とAからCまでは商業、住宅地域、それで、Dは商業地域ってところで多分、止まってたと思うんですよね。今回、突然にA、B、Cって分けて、Dはかつ、これは道の駅っていうふうなことが発表されたわけなので、それに至った執行部側の経緯であるとかっていうことは聞いてみたいというふうに思いますし、ただ、すごい時間の流れの中でそういう変化してきたところもあるんだと思いますので、その辺をよく復習した上で、あとは本委員会での話が、これからまちづくりに反映させていくためには、執行部との調整ってのが必要になってくるんですが、どういうタイミングで、どういう場でこの執行部との調整していくのかってところが、ちょっと気になります。

○小田上委員長 ありがとうございます。

なので、意思決定というか、計画案が策定されて、今回のゾーニングの話、具体的なちょっと話、例、出ましたけど、そういうところが、どういう理由を持ってこういうことにしたのかってところを聞いていきたい。なので、執行部、中野委員が言われたところ近いかと思うんですけど、どういう思いを持って決定されたかっていうこと。

あと執行部との調整って言われるのが多岐にわたるとは思うんですが、例えば、この特別委員会の中で決議案を出すとかっていうことになるときには、どうやって実現しないような無理なことをこの委員会でやりましょうって言ったって何の意味もないので、しっかりと執行部にこういう意見を出したら協力してくれるか、もちろん議員としても、議会としても、委員会としても協力をするよ。ただ、これが出ることによって前に進むよねっていうようなところの調整とかっていうのは、しっかりしていかないと、勝手にこっちの思いだけで決議文出したとて、なかなか難しいんじゃないかなと思います。そういう調整は都度、議長、副議長、委員長、副委員長で調整する場面もありますし、それは逐次、報告を皆さんにしていくっていうことも必要なというふうに感じてます。ありがとうございます。というところでもいいですよ、小出委員。

こういう意見いただきました。ほかございますか。今まで出てるものに合わせても結構です。

末広委員。

○末広委員 先ほど豊川委員からもあったんですけど個人、議員個人で情報を集めるのも必要だと思うんですけども、さっき中野委員もおっしゃられてましたけど、議会として情報を集める場の有無、必要性も議論にしないといけないと思うんですけども、シンポジウムなり、例えば、アンケートなり、そういうことも検討しても、議会としてそれを必要とす

るかの議論をしてもいいんじゃないかなと思います。

以上です。

○小田上委員長 ありがとうございます。

意見交換、委員会としての市民との意見交換の場が必要なんじゃないかと、それもあってもいいんじゃないかという意見でした。ありがとうございます。

他にございますか。

中野委員、どうぞ。

○中野委員 さっきのちょっと振り返りのところなんですけど、前回、多分、細川委員が委員長をされてたと思うんですね。やっぱり当時の特別委員会のことを御存じの方が今回、委員に、副委員長としていらっしゃるっていうのが、非常に心強いなと思いますので、その当時、議事録になかった背景とか、私も昨日、議事録見て、ここどんな感じだったんかなっていうのも聞きたいところがあるので、何かそういった、何ですかね、特別委員会設置するに当たっての課題であったり、ここはあの当時ちょっと難しかったなみたいなことも、次の勉強会か、委員会でちょっとお伺いしたいなっていうふうに思いました。やっぱり前回のを踏まえて今回どうするのかっていうところだとも思いますので、そういったところちょっとお聞きしたいなと思いました。

以上です。

○小田上委員長 ありがとうございます。

中野委員、御紹介いただいたとおり、前は小方地域まちづくり対策特別委員会がありました。そのとき中間報告、最後の中間報告をされてるのが細川委員長であったということなので、副委員長、次回までにまとめたものみたいな、書簡みたいなのは。

○中野委員 別にそこまでは求めてないです。

○小田上委員長 中川委員。

○中川委員 すいません、もう既に決まってるか、まちづくり基本構想が出てるんで、私たちが来年9月までに具体的に進めないといけんので、あれこれみんなの声を、ああでもない、こうでもないって聞いてたら、前に進まないと思うんですよ。今、決まってることを具体的にどう進めていくかいうことをまず私たちは検討しなければいけないのではないかと。その上で執行部と意見交換、ここで交えてやる場合もあるかもしれませんが、そういった場合は、またちょっとぐちゃぐちゃになるかも分からないので、その辺は委員長がまとめて、執行部との今どういう考えで進んでる、じゃ私たちはどういうふうに話し合っていかなきゃいけないかいうことをまずやっていかないけんのだと思うんですよ。その上で過去においてこういう話でしたよいうところを経験者が話してくれれば。もうとんでもないところから意見を持ってきて、また、ああでもない、こうでもないってなってもいけないと思うので、具体的に進めていく中で過去にはどうだったかいうことを話していただければ、いいんじゃないかと思うんですが。

来年度、一応、まちづくりの予算が出てるんで、それをどこまで来年度進めていくのかいうことをまず私たちが聞いて、未来の構想を考えながら来年度を具体的にどこまで私たちが話し合っていかなければならないか。その上で、市民の声をどう聞いていかなければ

ならないか、どう活かしていかなければならないかいうことを話し合わなければならないんじゃないかと思います。

以上です。

○小田上委員長 ありがとうございます。

中野委員、どうぞ。

○中野委員 中川委員、ありがとうございます。

おっしゃるとおりで、別に前回がどうだったかっていう根掘り葉掘り聞きたかったわけじゃなくて、進めるに当たって我々、特別委員会としても、どういうところが課題になるのか、こういうことをしたいんだけどっていうところでの知識をそのときにお伺いできればっていうことだったので、そのときの意見をまとめてくださいっていうことではないので。やっぱり特別委員会をつくるに当たって、どこで落とすのか、落とすところっていうところと、前回いろいろ請願とかの話もあったと思うんですねっていうところで、前回、経験された方のお知恵とか、知識をお借りしたいっていう意味で言いましたので、そういう機会をつくってくださいっていうことではありませんので、おっしゃっていただいたとおりです。最優先事項で具体的に進める中で、そういうお話も聞きたいですって意味合いでした。

以上です。

○小田上委員長 ありがとうございます。

いろいろと意見が出ております。今、中野委員が触れていただいたところの落としどころっていうところなんですけど、皆さん、何かイメージされてますか。

中野委員。

○中野委員 これもう各市町村のまちづくり特別委員会の落としどころって何なのかっていうと、やっぱりさっき言ったように政策提案するのか、予算への反映っていうところを目的として動いてるところもあれば、現地での状況とかを調査して市民に伝えるっていうところを落としどころにしてる特別委員会もあるんですね。なので、スケジュール感でいくと、もちろん最終的に政策提案までいければいいと思うんですけど、でもあくまで今、市として基本構想ができて、こういう方向性で進みたいっていうところに対して、特別委員会として、代案として、こういった形、基本構想にそれない形で提案するってところが大切なかなっていうと、僕はそこまでいく必要は、難しいんじゃないかなって個人的には思ってます。

それよりやっぱり地域の皆さんの声を拾って、届けて、地域の皆さんに説明できるような知識の底上げと情報共有っていうところで、議会としてもしっかりチェックしてるし、関わってるんだよっていうところの発信が必要になってくるのかな。スケジュール的にいうと、ちょっとそこぐらいを落としどころになるんじゃないかなっていうふうに思いました。その先で、もう提案までいければ最高ですけど、ちょっとスケジュール的にそういう感じなのかなと前回のを見て思いました。

以上です。

○小田上委員長 ありがとうございます。

この委員会でしっかり執行部の話を聞いて、市民にどうなってるんだって言われたときに、しっかり説明できる状態にはしておきたいというようなことだったかなと思います。

終わりだったらまだ聞きたいんですけど、基本的に執行部がどう思ってる、こういうことをやろうとしてるんだよってというのが、まだ皆さん、しっかり分かってないんじゃないかなと、そういうところが漠然とした不安とかっていうものにつながってるのかなと思います。いろいろ具体的な内容について、まだ聞かされて時間も間もないというところがあったりします。やっぱりしっかり執行部からの情報提供を受けたいというところがまず基本になるかなと思います。なので、執行部にしっかり情報提供をお願いするということは、この委員会からお願いして、議長、それは可能ですよね。

というところで、しっかりやっていきたいと思います。

どうでしょう。いっぱい出てますけど、副委員長、何かございますか。

どうぞ。

○細川委員 まずは最低でも中間報告、前回の特別委員会の中間報告は、しっかりと頭に入れていただいた上で、新たにできた特別委員会で何ができると、何をしたらいいかっていうのは、やっぱり考えていかなきゃいけないことかなと思いますが、今もスケジュール感って話も出ましたが、1年しかないの、1年間でどこまでできるのかってのを頭に入れながら、何かしっかりスケジュールを立てて、私たちとしてここまではやると。ただ小方のまちづくりそのものは1年で終わりませんので、また次のところにはこっから先を託していくっていうことができるような、そこが次に言えるようなことを思いながらやっていかなきゃいけないかなと思ってます。

○小田上委員長 ありがとうございます。

皆さん、分かるとは思うんですけど、今、計画で出てるものに関して、令和十何年とかっていうものもたくさんあります。小方のまちづくりについては、今後すごく長いスパンで関わっていかないといけないというところで本当、始まったばかりで、たまたま任期が今のところ1年というところで、しっかり方向性をつけていく1年間にすべきかなというふうに皆さんの話を聞いて思いました。

なので、とはいっても令和6年度予算で予算がついてるものもあります。道の駅の調査費とかですね。あとは前回の議員全員協議会でゾーニングの分けの話もありました。ある一部の地区については、令和6年度中に売却を目指して取り組みたいというような話もありましたので、実際に動き始めるところもあります。なので、中川委員に触れていただいてたところかなとも思うんですが、今、予算として決まってるところってのをしっかり注視していきながら、その場、そういうときに何か疑問点が出たときには、前回の委員だった方とか、基本構想を読み解くとかっていう作業もやっていかなきゃいけないのかなというふうに感じました。

ただ、いきなり話を聞いても疑問ばかりになっちゃうと思うので、中野委員、藤川委員、末広委員、ほかの委員の方も提案いただきましたが、まずは基本構想と、この議員全員協議会が6月、ごめんなさい、令和6年の1月11日と令和6年2月19日の議員全員協議会だったかな、間違えてたら、ごめんなさい、訂正をお願いします。1月17日だったかな。

議員全員協議会が2回にわたってあったと思います。その資料の確認もしてきてください。次回までにしっかり読み込んでいただいて、自分なりにこういうところをやっぱり疑問に思ったんだよねというところをまず作っていただくですね。御紹介ありました前回の小方まちづくり対策特別委員会の中間報告がありますので、それは全部の議事録をっていうところも必要かもしれませんが、大筋、どういう活動をしてきて、どういう結論を得てるかっていうのは中間報告で分かりますので、あれが平成28年、平成29年ですね、平成29年の6月定例会の最終日の議事録に載ってますんで、そこも確認いただけたらなと思います。

なので、次回までにやっておいてほしいことはこれなんですけど、スケジュール感もすごく皆さん心配いただいているところだと思います。ここで月何回やりたいですか、皆さん。どのくらいの頻度でやりたいか。イメージしてるのは。

末広委員。

○末広委員 委員会もそうなんですけど、さっき中野委員からも出ましたけど、やっぱりまだ執行部の思いとか聞いたときに、なかなか委員会で話して公開できないようなこともあると思いますので、広報広聴特別委員会みたいにじゃないんですけど、ざっくばらんに話せる場が欲しいと思うので、そういう勉強会みたいな形、簡単に気軽に集めるようなZOOMとかも対応できるような形で勉強会ができたらいいなと思うんですけど、いかがですか。

○小田上委員長 ありがとうございます。

なので、この小方まちづくり特別委員会を、委員会を開催せずに、勉強会という形式これが議長、実際になかなか多分こういう決まりっていうのがないんですかね。なので、そこを特別委員会でやると言えばできるのかもしれないですが、ほかの特別委員会もやりたいてって言って、どんどんやり始めるとなると収拾がつかないというところもあると思います。委員会の中継をやってるときに、ほかの部屋でちょっと勉強会やろうよとかっていうので集まったりしてZOOMもってなると、なかなか今の設備だとやりづらいとかあったりするんで、その整理はちょっとさせていただいて、でも、できないことはないと思うんですよ。勉強会っていう形で執行部の方に来てもらう。もちろんこの委員の中だけで情報共有の場にするっていうのも必要だと思いますので、やっていかないといけないかなと思います。なので、ちょっと事務局のほうも御協力よろしくお願いします。議長も整理お付き合いいただければと思いますので、よろしくお願いします。

どうぞ。

○細川委員 今、委員長のおっしゃることよく分かるんですけど、だから一つは、ざっくばらんに、例えば、委員会の中だけでやる場合もあるだろうし、執行部も含めて基本的には非公開というか、記録をもう全部残さないような、要点記録だけでもいいけども、そういうざっくばらんにいろいろ話せる場が欲しいというのと、ZOOMでもできるようなというのは、ちょっと別問題として考えておいたほうがいいんじゃないかなと。両方一遍にやろうと思うと、いろいろクリアしなきゃいけないことが出てきてると思うんですけど。いや一遍にできたらいいんですけどね。もしあれなら、まずはざっくばらんな会をできるよ

うにから優先的に考えてほしいかなと思います。

○小田上委員長 ありがとうございます。

ざっくばらんというものが、ざっくりとし過ぎて、いや皆さん、感覚は分かっていると思います。執行部との意見交換とか、皆さん、委員じゃなくて、議員として、例えば、一般質問とかの打合せとかも話聞きに行かれたりして、委員会の質問して、答弁をもらうっていうやり方じゃないところのほうが聞きやすかったり、聞きたいことが聞けるからっていうところの思いだと思います。なので、それに近い状況をどうやってつくっていくのはテーマかなと思います。全部、議事録に残して、一言一句やらないといけないこともあると思いますが、そうじゃないからこそできることもある。副委員長、御提案いただいたとおり、ZOOMっていうところは今後の課題として、まずは要点記録で執行部に来てもらって、こういう話をしました、こういうところの意見を聞きましたとかっていう程度の記録でオーケーなのかは、ちょっと分かんないですけど、そのくらいのものにして、今、委員会であれば基本的に中継を行うということはやってないので、ある程度、砕けたというか、意見聞いたり、伝えたりということができようかなと思います。なので、その可能性を模索していくのは大丈夫ですよ。

すいません、事務局と議長と整理が必要になると思いますので、御協力をお願いします。

その方向でいきたいんですけど、開催の方法は、何となくやり方とか、やりたいことっていうのは何となく出てきたかなと思うんですが、その方法によって頻度も変わるとは思うんですが、どのくらいを皆さんイメージされてますか。ここは共有しとかないと月1回とか、2か月に1回ぐらいのつもりで、それかもしくは定例会ぐらいに情報をもらっとけばいいというふうに、一つの方法じゃないですか。定例会ごとに集まったものをぐっともらって、しっかりと調査するっていうのも一つの方法だと思います。それか2週間に1回ぐらい集まって、1個ずつ、ちょっとずつやっていくっていうのも一つだとは思いますが、どういう頻度をイメージされてるのか、皆さんのお伺いしておきたいです。

中野委員。

○中野委員 ありがとうございます。

まずは、やっぱりさっき言った前回のところの復習、知識を入れた上での議論で、多分スケジュール感とかっていうの出てくると思うんですよ。ごめんなさい、私が何の役も受けてないんですけど、できるんだったら、やっぱり4月の中旬ぐらいには資料を読んだ上で何が疑問点なのか、何を議論にするのかっていう最初の方向を決定づけてから、その後、頻度になるのかなとは思いますが、個人的な要望としては月1回、皆さんで話し合いたいっていう思いはあるんですけど、そこで何に疑問があるのか、これやっぱり時間かかりそうだな、やっぱり頻度多くしないといけないなっていうところなので、まずやっぱり知識を得た上での最初の議論で頻度、回数が決まるのかなっていうふうに思ってます。

以上です。

○小田上委員長 ありがとうございます。

ちょっと次回までにそういうイメージも固めつつ、来ていただくのがいいんじゃないかという御意見でした。

なので、頻度については、そのような考え方でよろしいですか。

末広委員。

○末広委員 中野委員がおっしゃるとおりか、私も賛成なんですけど、例えば、月1回は決めておいて、そこで出てきたものについて回数が必要ならば、何か復唱してるみたいになりますけど、そこで議論を重ねるべきところは、例えば、1週間、2週間に1回やるってところで、いうふうな形で進められないですか。いきなり頻度を決めるっていうよりは、以上です。

○小田上委員長 ありがとうございます。

なので、固定して毎月この日にはやろうねと決めておいて、ただ増える可能性もあるよねというような、臨機応変にできたらねっていうことですね。

ここで決めようじゃなくて、皆さんのイメージを伺いたいだけなんですよ。いや、こんな頻度でやるなんて思ってなかったよなんて言われても困るので。いやいや、こんな頻度じゃなくて、もっと増やしてくれよみたいな意見が後々、出ても困りますので、皆さんとどういう感じで、どういう意気込みで来られてるのかっていうのも、ちょっと今日、共有しておいて、皆さんで気持ちよくやりたいじゃないですか。なので、そういうところ聞いておきたいんですけど。何か月1回は押さえておいて、できれば状況に合わせてというような雰囲気ですかね、皆さん。何となく、でも状況によって変わってくるかなど。分かりました。

お話聞いてたら、まずは先ほど触れた、小方地区のまちづくり基本構想、議員全員協議会の資料、中間報告ですね。これを読んでみると。皆さんに意識して考えておいてほしいなと思うのが、執行部から、これは聞き取りをしないといけないという問題、疑問点ですね。一つあると思います。あと、この委員会のこの委員のメンバーだけで調査とか、議論をすることができるなっていう事項があるだろうと思います。その二つをちょっと分けて、しっかり考えていただく。あとは、中川委員に触れていただいていたところですけど、もう週明けから令和6年度が始まりますので、令和6年度予算に係るところで、令和5年度予算もまだ決算を迎えてませんので、令和5年度予算の決算で、まちづくりに関わる場所もしっかりと確認しながら考えていくというところが必要なのかなと思うんで、そのあたりは常に念頭に置きながらやっていただけたらなというふうに思います。いいですかね。

なので、まずは資料の説明を受けたりするには、まず基本知識を固めましょうっていうのは、皆さんもう総意かなと思うんですけど、よろしいですかね。なので、次回は資料を読んできて、疑問点を出して、何を聞いていこうかっていうものもですし、どれから取り組んでいこうかって優先順位をできれば次に決めたい。スケジュール感もこれだけ出たんだったら、どれくらいでやっていこうかっていうのも次で決めたいですね。優先順位とスケジュール感は、次回で決めましょう。

提案いただいていたものの中でグループLINEの作成っていうのがございました。どうしますか。このグループLINE作って、情報の共有だったりとかっていうところもっていう話でしたが、皆さん作成はいかがですか。いいですか。

どうぞ。

○細川委員 ちょっと待って、イメージ分かんないんですけどね。何を共有していくためのグループLINEにするのかってあたり、もうちょっと。

○小田上委員長 中野委員。

○中野委員 ありがとうございます。

情報共有っていうところで、何て言ったらいいんですか、今、広報広聴特別委員会のグループLINEもあるんですけど、そこでこういう情報あるよかっていうところでの広報広聴に関する情報の知識の底上げっていうところで情報共有してるところが1点、あとは事務連絡、広報広聴で締切りこうなってますよね、こうなってますよねっていうところなので、小方のまちづくり特別委員会で、ちょっとこの後、言おうと思ったんですけど、それでまず事務連絡ができるようにしたいっていうところと、参考になる情報があったら共有したいなっていうところがイメージとしてありました、主には。でもそういった事務連絡とかっていうところになってくるのかなと思うんですが、単純にほかの委員会でやってよかったなと思ったんで、今、提案させてもらってます。そういうイメージでした。

○小田上委員長 ありがとうございます。

なので、事務連絡と、あと参考になる資料とかの情報共有がしやすくなるんじゃないかなという御提案です。

末広委員。

○末広委員 それ、そこで情報共有させていただくのは、広報広聴特別委員会は多分ちょっと違うとは思いますが、情報共有するところに事務局って入っていただいたほうがいいですか。情報共有そこでするのもいいです。その他、情報共有するために、ざっくばらんな会議もできるよっていう話もさせていただいてるんで、事務連絡は、自体は別にそれはありかなと思うんですけど、情報共有っていうのが、ちょっと何か難しいなとは思ったりはするんですけど。個人で集めたものをそこにどんどん貼ってくるのかとか。それもいいのかどうか、ちょっと分からないなと思うんですけど。

○小田上委員長 どれだけ通知が来るグループLINEなのかっていうところなんだろうと思います。必要な情報が適宜、来るってところが必要だと思うんですけど、あまりにも一方的なものになると、またこれが適切なのか、適切じゃないのかっていう判断も難しいんじゃないだろうかっていう意見なんじゃないかなと思います。

あといかがですか。事務局が入るかどうかっていうところで、どうしてもLINEっていうものでいくと個人のアカウントになっちゃうので、職員さん個人に入っていただくっていうのは、なかなか難しいのかなという気がしていますが、どうなんでしょうね。

どちらでも構いませんよ、あっても、なくても。なければないで事務連絡しっかりメール見ていただいて、ちょっと勉強する場だったりとか、こういう委員会じゃない場っていうのもなるべく設けられるよっていう努力は副委員長と調整しながらつくっていかないと。あればあったで、何かに取り組むときの情報の伝達の速さというのはあるので、どちらでも構いません。皆さんが必要だと思えばやればよいと思います。

末広委員。

○末広委員 事務連絡、素早い情報交換のためには、それはあってもいいと思いますので、取扱い、個々のモラルも関わってくると思うんですけども、そこら辺さえ気にしていただければ、事務連絡っていうのはありかなとは思いますが。

○小田上委員長 中野委員。

○中野委員 ありがとうございます。

私もLINEグループ作る時、どこでもそうだと思うんですけど、仲良しグループでやるっていうことじゃないんで、本当に情報の共有と事務連絡っていうところで、そのモラルっていうのは、この場で共有しておけばいいのかな。私としては、やっぱりこれ参考になるな、いい情報だなっていうところを特別委員会の皆さんで共有したいって思いだけです。そのモラルさえ皆さんで節度を守られて作ればいいのか。目的としては本当そこだけです。

○小田上委員長 ありがとうございます。

ほか、よろしいですか。

細川副委員長。

○細川委員 すいません、私いまいち、こういう議会の場でLINEで情報共有したという経験がないんで、あんまり積極的にやりたいという方向に気持ちが向かないんですけどね。今、事務局が入るか、入らないかって問題ありましたよね。だから、やっぱり個人のアカウントなんで、ちょっと事務局に入っただくのは難しいんじゃないかということですよ。そうなってくると、どんだけ緊急性のある事務連絡が、このまちづくり特別委員会の中で出てくるのかなというのには甚だ疑問があります。明日までにみんなに連絡しなきゃいけないことが出るなんていうことは、あんまり委員会としては、ないんじゃないのかな。むしろそういうことは少ないような気がするんで、やっぱりきちり事務局を通すってことは、それが公的な情報としてみんなに行くわけで、LINEのグループLINEの中で、ああだった、こうだったとか、いろいろ情報の共有しても、それはやっぱり公的な文書にはならないんじゃないかと思うので、やっぱり必要な、とてもいい情報があるとか、提案があるのであれば、きちり事務局を通して送っていただくほうが委員会としたら、しっかりとした根拠を持った動きになってくると思うので。広報広聴特別委員会ですら、どういう使われ方をしてるのか、ちょっとよく分かんないんですけど、この小方まちづくり特別委員会ですら、ここまで緊急性のある事務連絡とか、緊急性のある情報の授受っていうかは出てくるかどうかっていうのは、ちょっと今まだ分からないので、あんまり慌てて作らなくても、やりながら、やっぱりちょっとこれは必要だねになれば可能性は閉ざさなくてもいいと思うんですけどね。と言いつつ、一抹の不安は、やっぱり事務局が通らないっていうのは、非常に不安です。

以上。

○小田上委員長 ありがとうございます。

情報共有をする際に、そうですね、期限だったりとかっていう通知も委員長がやるのかとか、気づいた人がいつまででしたよねっていうのをやるのかっていうのもLINEも便利なんですけど、やってる、しっかり使ってるというか、発信して、投稿して、共有しよ

うっていう方に負担がかかり過ぎるといふか、ということもあるんじゃないかなと思います。

ただ、それよりももうちょっとフランクなもので使いたいというところも分かりますので、ひとまず勉強会とかっていう開催しっかりできるように、情報共有の場、増やせるように努力をしますので、LINEは一旦、保留という形で、ちょうど広報広聴特別委員会の委員長がおられますので、どういう使い方がされてるか分からないというところの御紹介は平場でしていただいて、そういう使い方、本当ですか。

藤川委員。

○藤川委員 すいません、お時間いただき。情報共有っていうところも、もちろん今から大事になっていくので、月に1回、委員会をやっていく方向性で、今からテーマが上がってくると緊急にまた次の委員会の日程調整が必要になりますよね。そのときにLINEでの日程調整はすごい早いです。広報広聴特別委員会もそういうやり方はやってます。提出期限近づいてますよとか、もちろん委員長の負担ありますけど、いついつやりますよとか、各委員覚えてますかみたいな、かなりの量をこなしてますんで、度忘れということがやっぱりあると思うんですよね。だから、そこでまた確認といふか、そういうところからのスタートになるのかなと思ってます。テーマが決まってないんで、何を情報共有するなんて今からだと思ってますんで、ただ日程調整するには、今、私は便利に使わせてもらってます。

以上です。

○小田上委員長 ありがとうございます。

何かありますか。

中野委員。

○中野委員 ありがとうございます。

やっぱり個人のプライバシーに関わる問題なんで、一人でも反対が出れば、私も無理にとは思ってないんです。ただ、総じてやっぱりやりたいのは、この場でこの議論をしっかり深めたい、この時間でってところが根本にありましたので、ちょっとこの後、提案しようと思ったんですけど、次の勉強会でもう私は可能であれば、事前質問で皆さん意見出して、こういう質問が出てるんだ、それ踏まえてみんなで議論しようっていうような形で、その場で出す、その場で話すっていう時間、なるべく議論にしっかり時間使いたいって思いがありましたんで、そういった情報共有ってところの伝達の素早さでLINEっていうのがあれば便利かな、会議の場で初めて出すとかっていうことではなくっていうところでの提案でした。なので、無理に作ろうとは思ってません。どうかと思っての提案でしたので。思いといたら、この集まってる時間で必要なことを集中してやりたい、議論をしっかりしたいって思いがありましたので、そういう思いです。

○小田上委員長 ありがとうございます。

ひとまず広報広聴特別委員会の委員長にも御紹介いただきましたが、進め方の中で必要だねっていうことになるかもしれませんので、そのときには作るということをお願いします。

進め方としては、よろしいですか、皆さん。まず3点、上げたものを読んでくる、疑問点を出す、それを次回出していったら、その中で取組の優先順位を決めるというところ。その考え方としては、3点上げたもの、執行部からの意見を聞いてくるもの、委員会の中でしっかり議論したいものっていうところ、この2点と、もう1個、実際の予算、決算に関わる場所、実際に動いているところっていうのを意識していただくということだと思います。

○細川委員 これを事前に出すってということですか。

○小田上委員長 すいません、今、中野委員から提案がありました質問というか、疑問、こんな疑問を持っていますとかっていうのを事前に出すかどうかなんですけど、出しておいて、それについてということも。どういう疑問を委員が持っているのかってというのは、知れてたほうが議論は入りやすいのかなと思いますが、どうしますか。事前に出しておいてにしますか。それか、その日までに読み込んできて、その場で疑問を出し合って。基本構想は章が分かれていますよね、何章、何章って、その章ごとでやっていこうと思っています。もしやるのであれば。

藤川委員。

○藤川委員 読んで、疑問点を出すのは分かりました。予算に係るものというところでちょっと引かかったんですけど、予算に係らない疑問点も出てくると思うんですよね。予算がかかるものと縛れば幅が狭くなると思うんですけど、読んで疑問点でいうたら、ものすごい膨大な数、膨大な量になると思うんですよ。それをまとめる作業だけでも大変だと思うんですけど、ちょっとその辺をまとめていただいたら、どうしたらいいのかなと。すいません、私の頭で今まだ、ついていけないんですよね。

○小田上委員長 そうですね、基本構想だとこの、例えばですけど、基本構想の一番最初は現状の1、地勢とかああいうところで、人口の動向、交通状況とかっていうのが書いてますね。こういうところは問題ないだろうとは思いますが、そこで問題点というところが書かれてたりするんですよね。こういう問題点がありますとか。じゃ、この問題点って本当に問題点なの、そうは思わないけど、でもいいです。疑問点として。

どうぞ。

○藤川委員 それは予算に関係ないですよね。それはどういうふうに考えた方がいいのかなと思っ、すいません。

○細川委員 何が疑問なのか何となく分からない。

○小田上委員長 なので、押さえておいていただきたい質問の考え方の三つが、執行部に聞きたいこと、執行部に意見を聞いてみたいなって思うこと、委員の中で議論をしたいこと、今、進んでいる令和5年度決算されるもの、令和5年度予算、令和6年度予算に係るものの中でやっていくって、この3点の視点が要るのかなと思うので、見てって、あれっ、これは何って思うものは執行部に聞くのか、委員会の中で議論したほうがいいかどっちかだと思うんですよね。基本的には。令和5年度の予算を見て、令和5年度予算で動いたところに関しての疑問とかっていうのは、また別で。

藤川委員。

○藤川委員 ありがとうございます。

毎回その3点をテーマに進めていく形になるということになるんですよね。

○小田上委員長 その3点をテーマにっていうよりも、その三つぐらいの感覚でいていただいてのほうが分類分けしやすいかなと思ってます。これは執行部に聞かないといけないことの中でも今、予算組みをして、今、進んでる途中のやつなんで、まだだねとか、終わってるやつだねとかっていうのを分けやすくするためっていうことです。何となく分かりました。

中野委員、どうぞ。

○中野委員 ありがとうございます。

私も執行部に聞きたいこと、この特別委員会で取り組むべきことみたいな感じを多分イメージをおっしゃってると思うんですね。初回は、やっぱり皆さんが何に疑問を持ってるのかっていう意見出しをして、その中でやっぱり、これとこれ共通だよ、これ特別委員会で執行部に聞かないといけないよねっていう抽象化するための一回目の議論だと思うんですね。なので、まず資料を読み込んだ上で、各委員が何に疑問を持っているか、何に、何を聞かなければいけないのかっていう初回の意見出しはそこになるのかなと。それ踏まえた上で、次の議論で、それでは、この意見が多いんで、これを中心に進めていこう、それでは、このスケジューリングかなっていうところだと思うんで、まず資料を読み込んで意見出しをする、分からないところ、疑問点っていうのをしっかり出していくっていうのが、初回のこの意見出しかなっていうふうイメージで思ってます。

○小田上委員長 ありがとうございます。

そのような取組で大丈夫ですか。

副委員長。

○細川委員 今話をあらかじめ、だから疑問点は提出すると、みんなが中野委員がこういうことを疑問に思ってるんだっていうことを分かった上で当日、委員会でまた話をするっていうイメージですかね、今ね。

○小田上委員長 では、事前に疑問点を出していくというところで、その三つに分けてっていうのは、とりあえず置いときましょう。置いといて、疑問点をばっ出して行って、これはこういうことだよっていうのを一緒に分けていく作業をしましょう。なので、気になるところ、ほんとなかなこれと思うところでもいいですし、どんどん出していただいて、出す形式、何かこの形式がいいよとかっていうのが特になければ、Excelでページ数と文言書いて、どのあたり、疑問点っていうところ、ページ数とどこが疑問に思った文章だったり、どこか分かるような説明と疑問点、この3点で構成していただいたら、こちらもやりやすいかなと思います。

よろしいですか。Excelで作っていただくということで。

[発言する者あり]

○細川委員 表を自分で作るのですか。

○小田上委員長 事務局に提出でいいですか、そのほうが来てるか分かるのが確実なので。ですが、事務局でExcelのデータをまとめるっていう作業はお願いしようと思ってま

せん。委員長と副委員長でExcelをまとめてってやろうと思うんですが、御協力いただければExcelでお願いしたい。今日中にフォーマット作ります。そうですね。すごい簡単なフォーマットにしますんで、フォーマット作るとくんで、それでどんどん行を増やしてって、やってってください。それでいいですね。Excelのデータで送ってください。お願いします。

それを事前にまとめたものを提出して、サイドブックに上げておきますので、タブは消しますんで、小方地区のまちづくり基本構想と議員全員協議会の資料とかってところで、ちょっと分けてはおきますんで、しっかり確認をお願いします。なので、事前のやつでいいですね。

中野委員、どうぞ。

○中野委員 すいません、ありがとうございます。

ちょっと調べるものに対しても、しっかり共有しとかないといけないなと思うんで、改めて共有なんですけど、1つは小方地区のまちづくり基本構想ホームページにあるところなんですけど、本編と概要版、両方もちろん把握しておかなきゃいけない。私いろいろ見る中で、その下にまちづくりのニーズっていうので、宮島口のアンケートであったり、市民ワークショップっていうところの議事録も全部出てるので、そこは重ねて見ておいたほうがいいかなっていうふうに思いました。

それともう1つが平成28年、29年の前回の特別委員会の議事録、一番長いもので18ページの議事録があったんですけど、基本10ページ前後なので、その2つと、あと何でしたっけ、さっき本会議。

○小田上委員長 中間報告。

○中野委員 中間報告でしたっけ、それは皆さん必ず見た上で次の議論っていうことで、ここ見てない、見たっていうのがあっちゃいけないので、その3つは絶対押さえておかないといけんかなというふうに思いました。

以上です。

これ以外、見とかなければいけないっていうのがあれば、逆に教えていただきたいです。

○小田上委員長 今、提案いただいたものは目を通していただくということでいいですかね。疑問点書く場合にも、どこを見たかっていうのが分かるようにはするようにフォーマットは作っておきます。それ紹介いただいたところでいいですか。

これをサイドブックに上げてほしいとかありますか。なければですけど、皆さんホームページからいけますか。

藤川委員。

○藤川委員 もし可能であれば、その資料をまとめてサイドブックに上げていただければ、それはもう簡単ですよ。もう探す手間というか。もしできるのであれば。

○小田上委員長 大丈夫です。大抵こういうとき委員会とかで執行部に聞いたら、ホームページにありますって終わるパターンのをわざわざサイドブックに入れてくれるのはあれなんで。

中野委員。

○中野委員 すいません、リンク送ったらここっていう、例えばこの、ここと小方地区のまちづくり特別委員会、2つだけ、あと本会議と。

○藤川委員 分かっていますよ。出てるところは分かっています。

○中野委員 なので、結構サイドボックスに入れるとなると、すごい膨大になっちゃうかなと思ったんで、案内をリンクで送ってもらって、ここを見るっていうので、できればいいかなと思いました。

○小田上委員長 こういう作業でどこや、どこやというところをやる時にLINEがあるちょっと楽かもねという話なのかもしれません。今後こういうことが、どれだけあるかということなので、依頼文のところにURLは貼っつけときますんで、メールなので、そのURLは出しておきます。

今、中野委員に紹介いただいたものだけで大丈夫ですか。あとサイドボックスの中にあるもの等で確認いただきたいのは、先ほど触れた議員全員協議会のものもよろしく願います。二日分ですね。

次回の日程を決めて、それに向けて締切りを決めて、今日はこの程度かなと思うんですが、一応その他の項も用意してますので、もし何かお持ちの方がいれば、そのときに伺います。

流れとしては、もう大体、大丈夫ですかね。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○小田上委員長 それでは、次回の日程を決めたいんですが、事務局も人事異動がありますし、あまり4月の頭だと前の係に行ったり、前の係の方が来られたりとかいろいろ忙しいんじゃないかなと思うので、できれば、そうだな22日の週とかどうでしょうか。22日の週で、一応、既に25日は議会のあり方調査研究特別委員会が入ってるので、議会のあり方調査研究特別委員会はどれくらいになるか分かりませんので避けたいです。22日か23日あたり、この週だったらですけど、例えば、23日はいかがでしょう。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○小田上委員長 議長は、おられない。副議長もおられない。

23日、24日が議長、副議長おられないと。委員は全員行けるのに、議長、副議長がいなくてっていうパターンですね。これが22日になるといかがですか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○小田上委員長 事務局は、22日大丈夫ですか。

22日は多分、長くなると思います。疑問出しして、スケジュール感とかも含めてやっていきたいと思います。一応、委員長、副委員長とおりますが、皆さんの意見しっかり出していただいて、皆さんで決めていくというような形を取っていきたいと思いますので、では、次回は4月22日にしたいと思います。10時からです。昼もまたぐ可能性があるんで、あまり予定を入れないようにしておいてください。

宿題の締切り、どうしましょうかね。あんまり早過ぎてもかなとは思いますが。ただ、こちらである程度まとめる作業はしたいんですね。なので、17日あたりぐらいには締切りにおきたい。よろしいですか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○小田上委員長 17日の23時59分まで、そのあたり目安で。なので、18日の時点で委員長、副委員長のところデータが、事務局にデータが行ってるという状況にしておいてもらえたらと思います。

副委員長。

○細川委員 皆さんから出していただいたのを整理して、それでもう一回みんなにお返しして、皆さんも見てくる時間が欲しいと思うんですよ。そしたら、だから逆に言えば18日ぐらいには皆さんと情報共有できるぐらいのスケジュール感を持つと思うたら、15日ぐらいいまですら出してもらわないと難しいかなと思うんですけど、どうですか、早く欲しくないですか。

○小田上委員長 そうか、なるほど。ほかの人の質問も早めに見ておきたいということもありましたもんね、さっきの話でね。

それでは、15日を締切りにしましょうか。15日締切りで、18日、19日あたりに整理をしたものが上げられればいいぐらいの感覚で、すいません、土日しかありませんが。

○細川委員 頑張りましょう。

○小田上委員長 締切りは15日中です。次回開催が、4月22日の10時からですね。

では、日程1は終了したいと思います。

日程2、その他です。その他何かあればお願いします。

中野委員。

○中野委員 ありがとうございます。

個人的な要望というか、一つの落としどころっていうところで、もう1個提案なんですけど、やっぱり今見ても、これはちょっと執行部に聞いてみないと分かんないんですけど、新しい道の駅っていう方針を打ち出されてから、市民の方へのワークショップっていうのを執行部がされるのかどうか。されないんだったら、この特別委員会で一つして、やっぱり市民の皆さんの声を執行部に届けるっていうのも一つの落としどころなのかな。というのが今、見てみても、市民ワークショップが2017年に行われて、それ以降っていうのが公の場での意見をいただくっていうことができてないので、そういったところでの最後の落としどころとしたら、政策提案じゃなくて、市民として、やっぱりこういう要望がある、特別委員会としても、ここは外してほしくないよねっていうところの意思をしっかりと伝えるっていうところも一つの落としどころなのかなというふうに思いましたので、今後、可能性があるんだったら、そういったワークショップ開いてもいいのかなっていう、これあくまで提案です。意見でした。

以上です。

○小田上委員長 ありがとうございます。

実際にこの中でやっていく活動プラスで、ワークショップっていうものを最後のほうですかね、計画してって、できたらいいんじゃないかというような御意見でした。それもちょうと頭に置きつつ、可能性を排除する必要は全くないので、いいのかなと思います。一つ頭に置きながら。

その他の項なので、何か気づきでもいいですよ。今回、委員長の進行について、ここを直してほしいとかそういうもの言っても全然、大丈夫です。しっかり議論しやすい環境で議論しないともったいないので、一々集まっていたく時間がですね。

よろしいですか、ほか何か御意見等あれば伺っておきますが、特にないようであれば、今日はもう終わろうかなと思いますが、よろしいですかね。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○小田上委員長 では、ちょっと次回からボリュームが大きくなると思います。なので、しっかりと体調を整えることも仕事ですし、別に特定の誰かとかじゃないです。今日、僕も喉ガラガラなので、声が、そういうところも併せてしっかりと充実した委員会になるように皆さん頑張りましょう。よろしくお願いします。

では日程2を終了します。

全ての日程を終了いたしましたので、小方まちづくり特別委員会を終了します。皆さんお疲れさまでした。

14時44分 閉会